

## 夏に向け

### 小泊地域の海岸掃除・漁港清掃を行う

小泊海岸を守る会(代表：齋勝建設(株))が、4月22日(金)に小泊海岸や冬季閉鎖が解除された国道339号線の竜泊ラインなどの清掃ボランティアを行いました。この日の清掃ボランティアには、齋勝建設(株)、宝森建設興業(株)、島村産業(株)、(株)竹内組、(株)青南商事、(株)環境工学の6社、約180人が参加しました。

5月29日(日)には、小泊婦人会による小泊海岸の清掃活動、5月20日(金)には、下前婦人会による下前海岸の清掃活動がありました。5月26日(木)には、清港会による小泊漁港内の清掃活動が行われ、6月1日(水)から始まるメバル漁に向けての準備を行いました。また、町では毎年7月から、折腰内海岸など6海岸を対象に清掃活動を行っています。



## 毎年行う保全活動が認められ

### 小泊海岸を守る会が自然環境功労者環境大臣表彰

環境省では、自然環境の保全に関する顕著な功績があった人(団体)を表彰するとともに、自然環境の保全への国民の認識を深めることを目的として毎年「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を行っています。

全国で計25件の個人(団体)が選ばれ、県内では、保全活動部門1件と自然ふれあい部門1件が選ばれました。このうち、保全活動部門では、毎年小泊マリンパークから折腰内海岸、国道339号線の竜泊ラインの清掃活動を行っている「小泊海岸を守る会」が選ばれました。5月30日(月)には県庁で伝達式が行われ、「小泊海岸を守る会」代表の齋勝建設(株)齋藤彰浩代表取締役社長が出席し、県環境生活部石坂部長から表彰状と記念品を授与されました。齋藤代表取締役社長は「建設業界の強みである重機などを駆使して清掃を行ったこの活動は、今年で16年目になるが、自然環境保全のためにこれからも続けていく。」と力強く宣言しました。

## “さかなと海”ふれあい体験学習

### 小・中学校の生徒たちが漁業を学習

6月24日(金)から7月1日(金)まで各小学校、中学校の生徒が“さかなと海”ふれあい体験を行いました。

各小学校の児童たちは、海の生き物の学習やのしか体験、小泊漁港の見学などをし、漁業を学んでいました。

また、6月28日(火)、29日(水)に中里中学校の2年生、7月1日(金)には小泊中学校の2年生が下前婦人部の協力のもとメバル料理に挑戦しました。

生徒たちは、メバルのさばき方に苦労しながらも上手にさばき、自分で調理したメバルの煮付けや刺身に舌つつみを打ちました。



## 税金は何に使われているの？

### 町内3小学校で租税教室

将来の社会を担っていく小学生が税の意義や役割などの基本ルールを学ぶことを目的に、租税教室が行われました。6月8日(水)には小泊小学校、6月10日(金)には中里小学校、6月24日(金)には武田小学校で開催され、税務課職員を講師にした学習や税金が無い世界を描いたビデオを見て税の大切さを学びました。

最後には、1億円と同じ重さの見本を持ってみて、どのくらいの重さなのかを体験しました。生徒たちは、「税金が暮らしを便利にするためにあることが分かった」「税金が50種類もあることが分かった」と話しました。



## 元気に育ってね！

### 中里小3年生がヤマメの放流

中里小3年生22名が6月10日(金)に、滝ノ沢ふるさと砂防愛ランド深谷沢砂防ダム魚道周辺でヤマメの稚魚約5,000匹を放流しました。

初めに、県職員から砂防ダムの役割などを学習した後、バケツに入った稚魚を一斉に放流しました。

児童たちは「元気に育ってね！」と声掛けをしながら放流し、ヤマメの稚魚が大きく育つのを楽しみにしていました。

この事業は「子供達と共に夢を創る

会」(代表：白川勝則)が主催となり、県県土整備部河川砂防課と西北地域県民局地域整備部河川砂防整備施設課、町の協力のもと開催されています。

## さらなる連携のため

### 青森明の星短期大学と協定締結

青森明の星短期大学と6月21日(火)に同学内にて連携協定を締結しました。

青森明の星短期大学とは2015年に協定を結び、連携を取ってきていました。

今回の新たな協定は、町内小学校への英語のオンライン授業や認知症の方への声かけ訓練など教育や福祉の面でも連携していくものです。

